

離乳食・幼児食に関する研究

一 家庭養育環境及び家族との食事状況が児の離乳食摂食状況に及ぼす影響について一

高 橋 悦二郎*, 二 見 大 介*, 浜 野 敏 子*
足 立 己 幸*, 田 中 久 子**, 木野田 昌 彦**

要約：離乳食の実態について、特に家庭養育環境及び家族との食事状況がその栄養摂取に及ぼす影響について検討した。家庭養育環境について実態調査を行った結果、①対象児 93 名中、検査項目（JHSQ）の得点の合計が 19 点以下の“疑問”の割合が24.7%（23名）、“正常”の割合が 75.3 %（70 名）、みられた。②また、地域別（市・町・村）では、合計得点の平均が村に低い傾向がみられた。

家族との食事状況について、特に食事の共有を時刻と場所の観点からみると、③朝食は、子供のみで食べる場合が最も高く 34.4 % を示し、夕食においても同様の傾向であった。④また、食べさせ方の観点から、与える時の状況について 7項目のチェックを試みた結果、全体的には問題がないようにみられたが、「一緒に食べてみせながら与えた」、「準備を十分に行い与えた」は、それぞれ“はい”の回答が57.3 %、53.8 %と低く、母親の育児の中で食生活が必ずしも満足のいく状況にないこともみられた。

栄養摂取状況は、⑤家庭養育環境の正常群においては、栄養所要量より低い月令の領域が少なく、逆に疑問群では栄養所要量より高い月令が少ない傾向がみられた。

見出し語：離乳食、栄養摂取状況、家庭養育環境（JHSQ）、食べ方、食べさせ方、共食

研究目的：1988年11月の調査から、離乳の開始時期の早いタイプ（4ヶ月以前）は児の行動発達において、特に社会、運動の領域では大きな差はみられず、食事・排泄・生活習慣の領域に遅れる傾向のあることを確認した。これ

ら行動発達の遅れる傾向にある領域は家族との食事状況とそれを取りまく家庭養育環境と深く関わりながら存在しているものと思われる。

本調査は、家庭養育環境や家族との食事状況が、児の離乳食摂食状況等へ及ぼす影響につい

* 女子栄養大学

** 埼玉県本庄保健所

てその実態を把握するとともにその結果を様々な場面での栄養教育に有効的に活用することを目的に実施するものである。

調査内容：

1. 児の離乳食の状況について（票A）

- 1) 食事の内容（離乳食の料理名、材料名、分量、料理形態）
- 2) 食事の食べ方（かみ方、表情等）
- 3) 栄養摂取状況（調査結果より別途算出する）

2. 家族との食事状況について（票A）

- 1) 食事の内容（料理名、材料名）
- 2) 一緒に食べた人（食事の内容、時刻場所）
- 3) 今日の食事に当たって特に注意した点
- 4) 児に対する離乳食の食べさせ方（与える状況等）

3. 家庭養育環境について

埼玉県本庄保健所が使用している「1988 上田礼子 D.M.S.」による0歳児用 JHSQ を用いた。

4. 児の食事・健康等の経過について

フェイスシート（票B）により、調査に関連し必要と思われる基本的事項を把握する。

調査方法：本庄保健所と女子栄養大学食生態学研究室の共同調査とし、調査の期間を1989年11月15日（水）から16日（木）の2日間とした。なおその前日に調査用紙を配布し、回収は11月17日とした。この間、調査員による対象世帯の家庭訪問を実施し、調査票の記入について十分な指導を行った。

対象者は、1989年10月1日現在の月齢が3ヶ月から12ヶ月までの第一子で、都市化段階の異なるA市60名、B町49名、C村10名、計119名とした。但し、C村は第二子5名を含むもの。

調査結果：

1. 家庭養育環境の状況は、表1のとおりである。75.3%の児の家庭養育環境は「正常」であったが、「疑問」も24.7%みられた。特に、地域別では村に「疑問」の割合が高い傾向がみられた。表2はこれら調査対象児の月齢分布である。このうち、離乳食の栄養摂取量の把握が可能であった児75名（以下同じ）について月齢別平均体重を表3のとおり求め、この値を月齢別の児の平均栄養所要量算出の基準として活用した。

また、児の栄養法については表4のとおり、全体的に、母乳栄養の割合が「正常」群に高く「疑問」群に低い傾向がみられ、逆に人工栄養は「疑問」群に高かった。しかし、離乳開始時期についてみると表5のとおり、両群に大きな差はみられず、過去の調査同様37.3%の児が比較的に早い時期（3～4ヶ月）に離乳食を開始する傾向にあった。

2. 家族との食事状況について食事時刻と食事場所が同一である場合のいわゆる食事の共有をみると、表6のとおり介助者を必要とする乳児期の食事の特性から子供のみで食べるとする割合がどの食事区分においても高く、特に昼は最も高く43.0%を示した。

また、「与える時の状況」などの食べさせ方7項目については、全ての食事区分（朝・昼・夕・おやつ）を確認した結果、表7に示したとおり、特に「一緒に食べてみせながら与えた」「準備を十分に行い与えた」の2項目の回答が「はい」の割合が低い傾向がみられた。

3. 離乳食の栄養摂取状況については、母乳及び粉乳を含む実態調査により確認した上で、家庭養育環境の状況の観点から「正常」群と「疑問」群に区分し月齢別に明らかにした。この結果、「疑問」群に多くの問題が含まれている傾向がみられた。なお、これらの児の平均栄養所要量についても合わせて算出し表8と表9に示した。

考察：離乳食に関する調査においては、従来から比較的質問紙による聞き取り調査が多く、栄養摂取量について子供の食べた食事の分量から把握したものは少なかった。今回、少数例（75例）ではあるが、その実態について家庭養育環境の観点から明らかにした。平均栄養所要量との比較においては、一部の児に極めて充足率の低いことがみられるものの全体的には栄養所要量に近い値の範囲にあるものと思われた。しかし、脂肪摂取量の割合が比較的高いことや

無機質などの不足が目立つなど、また食べさせ方なども含め健康の確保と健全な食習慣の形成から危惧される面もあり、適切な栄養教育の必要性の高いことがうかがえた。

特に今まで、乳児期の栄養教育は児の栄養摂取量に重点をおき指導されてきたが、健全な食習慣の形成や家庭の食文化のあり方の観点からその家庭の食生活の全体像を明らかにすることが必要となっており、生活の視点で改めて見直すことが望まれる。

さらに、母子保健の観点から乳児期の食生活のあり方について、より生活に根ざした実践可能な栄養教育の充実を図り、体系化された小児成人病予防対策事業の流れに位置づけていくことが重要と思われる。そのためにも、家族の食事状況の児に与える影響や家庭養育環境との関連についてなお詳細な検討が必要である。

表1 家庭養育環境の状況（地域別）

	A市	B町	C村	計
得点の合計	971	852	228	2051
得点の平均 (SD)	22.1 (3.4)	22.4 (3.2)	20.7 (3.5)	22.1
最小～最大得点	16～28	14～27	18～27	14～28
正常 (20点以上) 人/%	33/75.0	33/86.8	4/36.4	70/75.3
疑問 (19点以下) 人/%	11/25.0	5/13.2	7/63.6	23/24.7

このうち食事記録「きょうの食事」の集計可能であった数はそれぞれ60人、15人である。

表2 調査対象乳児の月齢分布

単位：人 （ ）内：％

月齢 性別	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
男	2	1	8	5	5	6	5	6	4	5	47 (51)
女	3	10	5	7	6	6	2	3	3	1	46 (49)
計	5 (5)	11 (12)	13 (14)	12 (13)	11 (12)	12 (13)	7 (8)	9 (9)	7 (8)	6 (6)	93 (100)

表3 月齡別平均体重

単位: Kg () 内: 人

月齡 JHSQ	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
正常群 n= 60	—	6.55 (4)	8.21 (7)	8.21 (10)	8.04 (6)	8.35 (11)	8.59 (6)	9.39 (7)	8.83 (6)	9.86 (3)
疑問群 n= 15	6.50 (1)	6.27 (1)	8.50 (1)	7.20 (1)	8.20 (5)	7.32 (1)	9.30 (1)	7.20 (1)	9.50 (2)	7.80 (1)

JHSQ: 家庭養育環境検査項目合計得点

表4 栄養法

単位: 人 () 内: %

方法 JHSQ	母乳	人工	混合
正常群 n= 60	28 (46.7)	17 (28.3)	15 (25.0)
疑問群 n= 15	4 (26.7)	6 (40.0)	5 (33.3)
計 n= 75	32 (42.7)	23 (30.7)	20 (26.6)

表5 離乳開始時期

単位: 人 () 内: %

方法 JHSQ	3 ~ 4ヶ月	5 ~ 6ヶ月	7 ~ 8ヶ月
正常群 n= 60	23 (38.3)	34 (56.7)	3 (5.0)
疑問群 n= 15	5 (33.0)	9 (60.0)	1 (7.0)
計 n= 75	28 (37.3)	43 (57.3)	4 (5.4)

表6 食事の共有状況（時刻と場所）

区分 共有状況	朝		昼		夕	
	n	%	n	%	n	%
全員	27	29.0	7	7.5	30	32.3
子供のみ	32	34.4	40	43.0	31	33.3
母と子	20	21.5	22	23.7	7	7.5
父と子	3	3.2	3	3.2	3	3.2
父母と子	0	0	2	2.2	5	5.4
祖父母と子	0	0	1	1.0	1	1.0
*上記以外	11	11.9	18	19.4	16	17.3
計	93	100	93	100	93	100

*不明、未回収を含む

表7 食べさせ方の状況

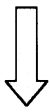
	①与える時の 状況		②話か けなが	③一緒 に	④子供 の表情	⑤準備 を十分	⑥騒々 しい	⑦明る い場所
ひざに	264 (55.9)	はい	356 (85.8)	137 (57.3)	411 (88.8)	250 (53.8)	88 (19.9)	426 (89.5)
椅子に	112 (23.7)	いいえ	59 (14.2)	102 (42.7)	34 (7.3)	215 (46.2)	341 (77.2)	31 (6.5)
床に	45 (9.5)	不明	-	-	18 (3.9)	-	13 (2.9)	19 (4.0)
その他	40 (8.5)	計	415 (100)	239 (100)	463 (100)	465 (100)	442 (100)	476 (100)
不明 NA含む	11 (2.4)	①与える時の状況 ②話かけ（微笑み）ながら食べさせた ③一緒に食べてみせながら与えた ④子供の表情・食欲等を 観察しながら与えた ⑤準備を十分に行い与えた ⑥与える 時、まわりが騒々しかった ⑦明るい場所で与えた						
計	472 (100)							

表 8 栄養素摂取状況 ・ JHSQ (正常) 上段数値: 栄養素摂取量
下段数値: 栄養所要量

月齢 n=60 (人)	Erg. Kcal	Prot. g	Fat g	Ca mg	Fe mg	V.A. I.U.	V.B1 mg	V.B2 mg	V.C mg
4 (4)	742 721	15.8 16.4	38.0 36.1	375 400	3.8 6.0	2282 1300	0.27 0.30	0.53 0.40	66 40
5 (7)	906 903	15.9 20.5	38.0 45.2	349 400	1.7 6.0	2158 1300	0.20 0.30	0.44 0.40	78 40
6 (10)	851 821	19.0 24.6	42.4 31.9	357 400	2.8 6.0	2516 1000	0.22 0.40	0.54 0.50	67 40
7 (6)	1030 804	28.9 24.1	42.9 31.3	561 400	5.9 6.0	2528 1000	0.40 0.40	0.81 0.50	79 40
8 (11)	961 835	24.4 25.1	43.4 32.5	448 400	4.0 6.0	2875 1684	0.30 0.54	0.57 0.50	87 40
9 (6)	715 859	22.2 25.8	26.6 33.4	457 400	4.4 6.0	1684 1000	0.54 0.40	0.59 0.50	58 40
10 (7)	966 1137	26.7 37.0	35.3 46.1	477 400	5.2 6.0	2387 1000	0.42 0.40	1.26 0.50	67 40
11 (6)	1137 883	37.0 26.5	46.1 34.3	444 400	7.5 6.0	2427 1000	0.49 0.40	0.78 0.50	86 40
12 (3)	710 986	24.5 29.6	17.8 38.3	415 400	4.7 6.0	1059 1000	0.31 0.40	0.62 0.50	35 40

表 9 栄養素摂取状況 ・ J H S Q (疑問) 上段数値: 栄養素摂取量
下段数値: 栄養所要量

月齢 n=15 (人)	Erg. Kcal	Prot. g	Fat g	Ca mg	Fe mg	V.A. I.U.	V.B1 mg	V.B2 mg	V.C mg
3 (1)	457 715	11.2 16.3	21.8 35.8	274 400	4.7 6.0	1170 1300	0.24 0.30	0.47 0.40	53 40
4 (1)	554 690	17.8 15.7	35.0 34.5	510 400	8.4 6.0	4270 1300	0.46 0.30	0.77 0.40	69 40
5 (1)	589 935	22.9 21.3	16.7 46.8	619 400	5.7 6.0	1215 1300	0.32 0.30	0.94 0.40	59 40
6 (1)	364 720	17.8 21.6	16.0 28.0	203 400	5.2 6.0	953 1000	0.27 0.40	0.65 0.50	32 40
7 (5)	842 820	22.4 24.6	40.0 31.9	501 400	5.2 6.0	4193 1000	0.29 0.40	0.71 0.50	61 40
8 (1)	1289 730	30.3 21.9	61.4 28.4	673 400	7.2 6.0	3344 1000	0.50 0.40	0.86 0.50	96 40
9 (1)	235 930	9.9 27.9	1.2 36.2	59 400	1.0 6.0	605 1000	0.09 0.40	0.08 0.50	16 40
10 (1)	1210 720	33.1 21.6	51.9 28.0	804 400	12.5 6.0	3684 1000	0.69 0.40	0.98 0.50	113 40
11 (2)	932 950	27.9 28.5	37.2 36.9	323 400	3.3 6.0	3101 1000	0.16 0.40	0.45 0.50	66 40
12 (1)	322 780	14.7 23.4	8.8 30.3	130 400	2.0 6.0	534 1000	0.17 0.40	0.24 0.50	15 40



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:離乳食の実態について、特に家庭養育環境及び家族との食事状況がその栄養摂取に及ぼす影響について検討した。家庭養育環境について実態調査を行った結果、対象児 93 名中、検査項目(JHSQ)の得点の合計が 19 点以下の"疑問"の割合が 24.7%(23 名)、“正常”の割合が 75.3%(70 名)、みられた。また、地域別(市・町・村)では、合計得点の平均が村に低い傾向がみられた。

家族との食事状況について、特に食事の共有を時刻と場所の観点からみると、朝食は、子供のみで食べる場合が最も高く 34.4%を示し、夕食においても同様の傾向であった。

また、食べさせ方の観点から、与える時の状況について 7 項目のチェックを試みた結果、全体的には問題がないようにみられたが、「一緒に食べてみせながら与えた」、「準備を十分に行い与えた」は、それぞれ“はい”の回答が 57.3%、53.8%と低く、母親の育児の中で食生活が必ずしも満足のいく状況にないこともみられた。

栄養摂取状況は、家庭養育環境の正常群においては、栄養所要量より低い月令の領域が少なく、逆に疑問群では栄養所要量より高い月令が少ない傾向がみられた。